

アニメ有頂天家族の日本語とサブタイトルの英語はどう違うか How do the English subtitles and original Japanese differ in the anime “The Eccentric Family”?

アシャ・ボラハン
Asya Borahan

82-373: Structure of the Japanese Language

1. はじめに

私のプロジェクトのトピックは有頂天家族というアニメの日本語オリジナルと英語のサブタイトルの比較だ。三週間前初めてみたので、見ながら「敬語がたくさんあるけど、英語のサブタイトルはあまりそれを見せないな」と思った。そして今週はこのプロジェクトをどうしようと思う時それを思い出してしまって、最初のエピソードをもう一度見た。敬語に集中しなくても面白い翻訳がたくさんあった。というわけで、有頂天家族の最初のエピソードの日本語と英語のサブタイトルを比較して、名詞的か動詞的か調べて、その理由を見つけない。そのためにアニメの最初のエピソードを見る。

2. 日英語比較

2. 1. 名詞的 vs 動詞的

(1) 人間などは、我らの歴史に 従属しているに過ぎない。

「Humans, they're naught but an accompaniment to our history.」

日本語の「従属しているに過ぎない」の「従属している」も「過ぎない」も動詞的なのですが、翻訳を見ると「naught」も「an accompaniment」も名詞的な言葉ばかりだ。この後の例全部にはそういう違うところがある。

(2) 少しは感謝していただきたいものです。

I'd like to be given a bit of thanks.

(3) それなのにひどく叱られました。

You'd think, but I got a good scolding.

2. 2. 名詞的か動詞的か：主語の効果

時々、英語と日本語の文のこういう違いは、日本語には主語の必要がないからだと思う。例えば、例(2)の日本語に主語が全然ないのに、サブタイトルにはある。それはそれで名詞とか動詞とかには関係ないかもしれないけど、よく考えれば英語の文にはたくさん人が入ってるのが分かる。そして人を説明するため使える簡単なものといえ、それこそは名詞。日本語はやはり状況に集中するから、名詞より動詞を使うのが一番いいだろう。

2. 3. 日本語と英語の文法で人間の場所

前に言ったとおり、英語の文には人がたくさんあるが、日本語には主語を使う必要がない。これは、英語が人間に焦点しながら、日本語が状況を考えるからで、だから英語には人を説明する言葉がたくさんある。人ができることとなれること全部のための言葉を持っている英語に対して、日本語はその瞬間で人が「何をしている」に集中す

る。例えば、(3)の英語にある「scolding」は、その人は「何をしている」の答えだが、日本語の「叱られました」のは、動詞で、今その状況で「何が起こった」の答えだ。

結論

英語は名詞的だが、日本語は動詞的な言語だ。日本語に大切なのは「何が起こる」かで、英語には「誰が何をやる」かだ。それは日本語が人間中心じゃなくて、状況中心だからだと思う。人間に集中しない、主語もあまり必要ない日本語みたいな言語には人を説明する名詞的より状況を説明する動詞的がもっと似合う。でも英語には人間が一番大事だから名詞をたくさん使うだろう。

その上に、東アジアの国には最初からあるものより変化の方が重要だ。その変化を説明するのは名詞じゃなくて動詞だ。それに対して、アメリカのような国はその生まれから持つ特性を大事にするから、別々なこと全部に名をつけて、そのものを名詞として使うだと思う。

データ出典

有頂天家族エピソード1 「納涼床の女神」。Crunchyroll, 7 July 2013. Web. 24 October 2015.